



# 知的障がい教育における模擬株式会社を 活用したキャリア教育の実践

北海道今金高等養護学校

模擬株式会社 IMAKANE FACTORYのロゴマークは、創立20周年のシンボルマークとして制作されました。原画は平成25年度の第17回学校祭のポスターに描かれていた「たまねすみちゃん」です。担当したのは、学校祭実行委員で産業科2年生だった16期生の生徒でした。

「たまねすみちゃん」は、各学科の生産品でできており、耳は、産業科の皿、右手は産業科のマグカップ、顔と体は農業科のたまねぎ、足は大根、しっぽの先は生活家庭科のエコ石けん、マントは生活家庭科のステンシル布巾です。

# はじめに

本校は北海道南部の今金町に平成9年に開校し、今年で21年目を迎えます。町は農業を基幹産業とする人口5,600名ほどの農村地帯です。生徒は主に函館市やその周辺の道南圏全域から入学してきています。学科については、現在、窯業科・産業科・農業科・家庭総合科・生活家庭科の5学科を開設しています。学校が所在する今金町では、本校開校以来、全世帯（2,600世帯ほど）が後援会に加入するほか、学校行事や部活動の大会参加の際には町所有バスの運行、グループホームの建設への補助金の交付、就労支援事業など、様々な学校支援活動を行ってきました。

平成22年11月に今金町議会は、町独自の「特別支援学校卒業生に対する今金町就労支援事業実施要綱」を定めました。この事業は本校卒業生を役場で、「今金町臨時事務嘱託員」として2年間雇用し、様々な業務を通じて職業能力を高め、一般就労に結びつける事業です。当時、このように市町村が要綱を定めて、継続して地元の高等養護学校生の就労支援に取り組むのは全道初の取り組みでした。

この2年間の就労支援事業の対象者となった卒業生は、1年目から見違えるような変容と成長を遂げていくことから、この事業をどのように学校教育に取り入れられるか考えるようになり、この事業の下限延長ができれば、これまでの職業学科を設置する高等部の教育方法では実現できなかった、より実践力のある生徒を育成できるのではないかと考えるに至りました。そのための条件整備としては、地域の行政や企業、関係機関との連携体制の確立が必要であり、平成28年10月4日（火）に外崎秀人今金町長と本校高嶋利次郎校長は、「特別支援学校卒業生の就労支援並びに自立支援に関する連携協定」を締結しました。このことにより、在校生の作業学習及び現場実習への協力、校内外での作業学習等における教員及び生徒への技術指導及び助言、就労支援及び通年雇用、居住環境の整備、雇用と生活の自立に向けた支援などについて、連携協力する体制が整備されました。

また、本校の入学生の実態が変化し、入学生の1/3が中学校の通常学級出身であり、発達障がいのある生徒も増加しており、社会で生涯にわたって働き、社会人として生活していく力を育成するためには、これまでにない取り組みの必要性を感じていました。教師から指示にされて行う「作業学習」そのものにも、時代の変化や生徒の実態の多様化に合致していない部分が目立ち始め、作業学習の進め方についても、アクティブ・ラーニングの一つである「協同学習」の方法を取り入れ、主体的・対話的で深い学びが可能となる新しい作業学習を開発し、より職業人としてのワークキャリアアップが図られる教育を推進する必要性がありました。

そして、平成26年度から今金町商工会が中心となって、本校卒業生の雇用創出と住む場所作りを目指す『にぎわい！今金』コミュニティビジネス創出による地域力再生プロジェクト事業が始まりました。この事業は、「障がい者がビジネスで活躍する町 ソーシャルタウン今金町」を目指しており、卒業生が地場産業の担い手となる取り組みが、全町的な取り組みとして進められました。

このようなことから、本校では、PTAと連携して平成29年度から模擬株式会社を活用した教育方法を試行し、生徒が地方創生と共生社会の担い手となるためのワークキャリアアップを図ることとしました。本冊子は、今年度取り組んだ「模擬株式会社 IMAKANE FACTORY を活用したキャリア教育の実践」の成果をまとめたものです。校内研究の推進に当たっては、本校の研究アドバイザーとして、北海道教育大学函館校の北村博幸教授に、本校まで足を運んでいただき、重要かつ示唆に富む御助言をいただき、研究を推進することができました。深く感謝申し上げます。是非、忌憚のない御意見と御助言をいただければ幸いです。また、今後とも本校への御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成30年3月

北海道今金高等養護学校長 高嶋 利次郎

## 目次

はじめに

第1章 模擬株式会社 IMAKANE FACTORY の設立前史……………1

- 1 特別支援学校卒業生に対する今金町就労支援事業
- 2 『にぎわい！今金』コミュニティビジネス創出による地域力再生プロジェクト事業
- 3 障がい者雇用事業者連絡会
- 4 特別支援学校卒業生の就労支援並びに自立支援に関する連携協定

第2章 模擬株式会社 IMAKANE FACTORY の全体計画……………6

- 1 設立の趣旨
- 2 模擬株式会社 IMAKANE FACTORY の目的
- 3 目標
- 4 学習内容
- 5 学習の仕組み
- 6 組織・業務内容
- 7 組織・業務内容
- 8 学習日程
- 9 帳票類と会計処理
- 10 諸帳簿の流れ
- 11 帳簿組織等
- 12 自己評価
- 13 年間指導計画

第3章 今養版商品管理システム……………16

- 1 目的
- 2 バーコード
- 3 エクセルのセットアップ
- 4 入庫・出庫の流れ
- 5 その他

第4章 実践研究の結果……………20

- 1 第1回学科全体交流会（模擬株式会社 IMAKANE FACTORY 総会）
- 2 学校祭の販売活動に向けて
- 3 生徒の振り返り
- 4 「会社の仕事」としての授業展開（受注品製作）

第5章 成果と課題……………37

- 1 模擬株式会社の取り組みの成果
- 2 模擬株式会社 IMAKANE FACTORY における指導の在り方に関する考察
- 3 模擬株式会社の取り組みの課題

〔資料編〕……………45

実践事例1・2・3・4

- 資料1 模擬株式会社 IMAKANE FACTORY 定款  
資料2 組織図・業務内容・諸会議  
資料3 IMAKANE FACTORY商品管理システムガイド  
資料4 模擬株式会社の帳簿

おわりに